

令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ）の捕獲と

生息状況調査の結果

指定管理鳥獣捕獲等事業（以下、指定管理事業）の捕獲及び生息状況調査の結果については保護管理ユニット単位でとりまとめる。なお、詳しい結果については参考資料2に提示する。

1 捕獲の実施結果（県中部区域）

1-1 令和6年度事業における捕獲結果

- 145 頭を捕獲し、目標捕獲数 100 頭の約 1.5 倍の結果であった。
- ユニット別 CPUE(1000 基日あたりの捕獲数)では I2 が最も大きく 10.73、次いで I6 で 9.12 だった。
- O10（大多喜町）は市原市の I2、I4、I6 と比較して CPUE が 5.45 と小さかった。
- O10(大多喜町)では 34 頭捕獲されたが、そのうち幼獣割合は 14.7%(5 頭)と市原市と比較して少なかった。
- 成獣メス割合は市原市の 5 ユニットでは 30%未満で、大多喜町の O10 では 35.3%となった。

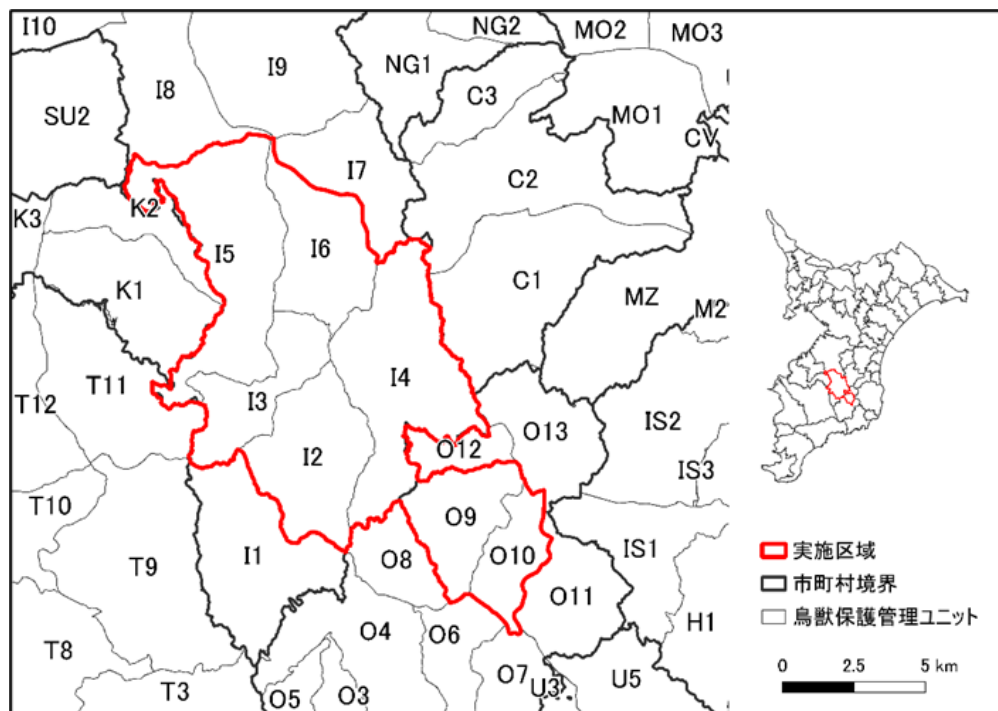


図 1-1 事業区域および周辺の保護管理ユニット

表 1－1 ユニットごとのわな捕獲の作業及び捕獲状況

市町村	ユニット	わな日	捕獲数	CPUE	空はじき率 (%)	成獣メス割合 (%)	幼獣割合 (%)	オス割合 (%)	幼獣/成獣メス比
市原市	I2	1,770	19	10.73	19.21	21.1	31.6	47.4	1.5
	I3	1,648	7	4.25	37.01	28.6	0.0	71.4	0.0
	I4	3,860	31	8.03	15.03	12.9	45.2	48.4	3.5
	I5	6,074	27	4.45	32.60	25.9	25.9	59.3	1.0
	I6	2,959	27	9.12	9.46	29.6	29.6	44.4	1.0
大多喜町	O10	6,240	34	5.45	3.53	35.3	14.7	50.0	0.4

※わな日はわな数×わな稼働日数により算出した。

※CPUE は（捕獲数/わな日）×1000、空はじき率は（空はじき/わな日）×1000 とした。

※オス割合は成獣オス・幼獣オスの合算値である。

※幼獣/成獣メス比は幼獣個体数を成獣メス個体数で割った値である。成獣メス捕獲数が 0 の場合は「-」で示した。

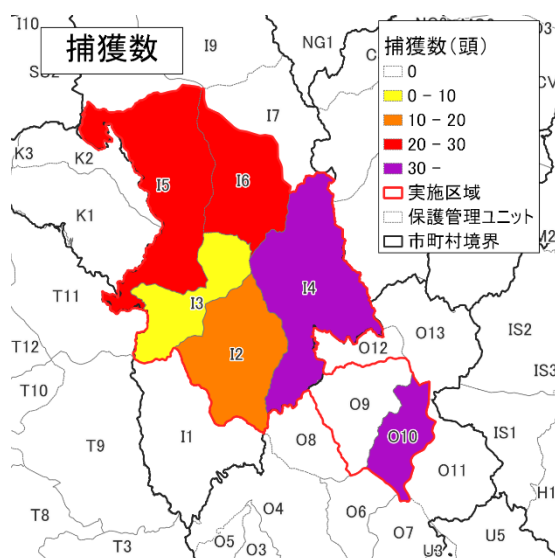


図 1－2 捕獲数

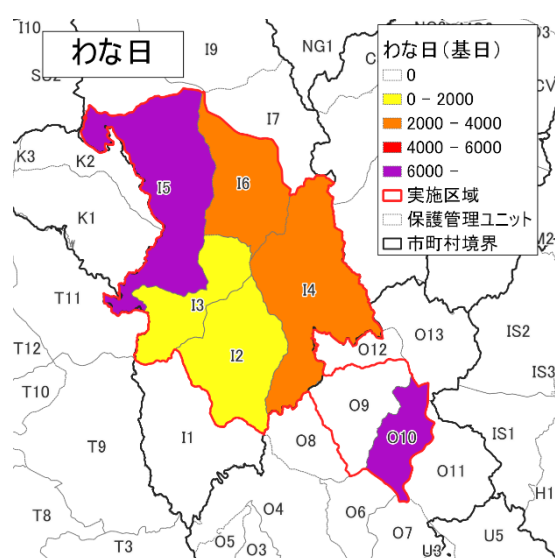


図 1－3 わな日

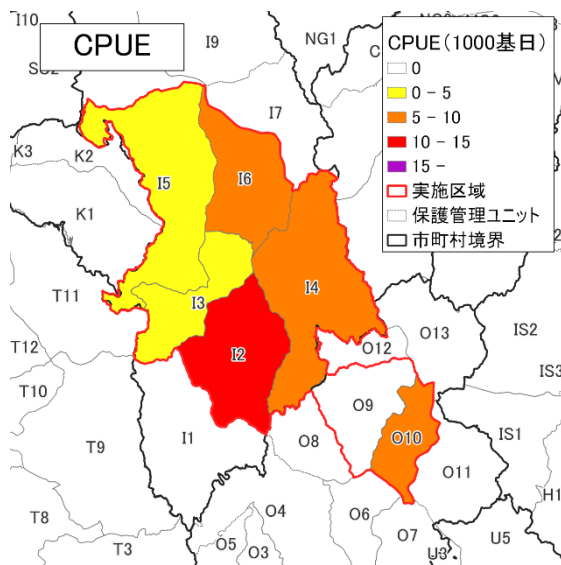


图 1-4 CPUE

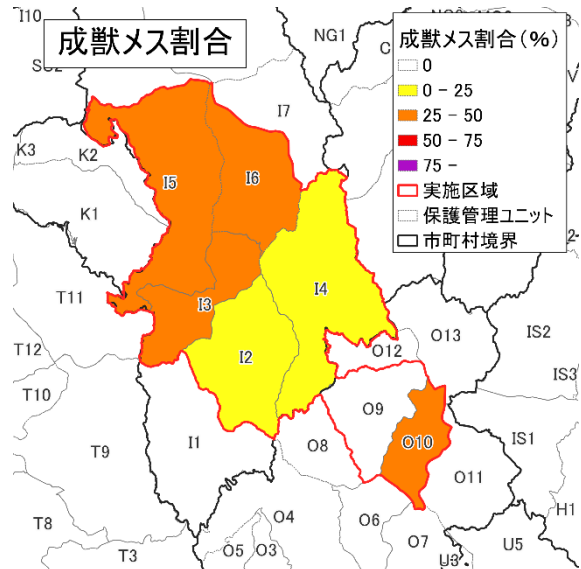


図 1-5 成獣メス割合

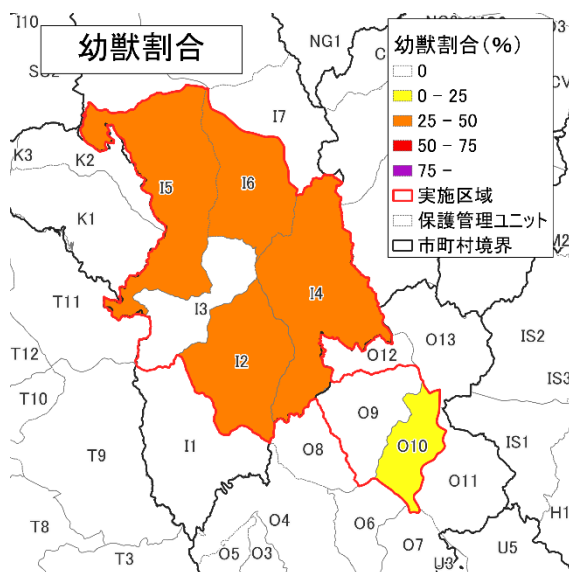


図 1-6 幼獣割合

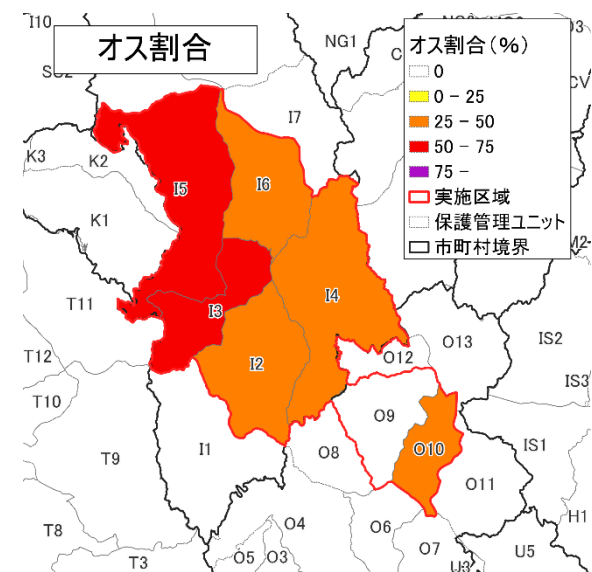


図 1-7 オス割合

オス割合が低い地域は定着が進んでおり、高い地域は進入初期に近いと示唆される。

1-2 令和4～6年度事業における捕獲結果

- 全域では令和5年度と比較して、令和6年度のわな日は増加し、CPUEは減少した。
- 令和6年度の幼獣割合は27.59%であり、令和5年度と比較して減少したが、令和4年度と同程度の水準となった。ユニット別では令和5年度に高いI2、I3、I5では減少し、I4、I6、O10で増加した。
- 全域では成獣メス割合は令和5年度と比べて増加したが令和4年度と比較して小さい値となった。大多喜町のO10ユニットでは高い成獣メス割合を示していたが減少傾向にある。

数値小  数値大

表1-2 令和4-6年度のわな数

		R4	R5	R6
市原市	I1		62	
	I2	63	16	25
	I3	84	11	16
	I4	24	3	45
	I5	24	55	59
	I6		1	32
	I7		5	
大多喜町	O10	80	60	60
中部全域		275	213	237

表1-3 令和4-6年度のわな日

		R4	R5	R6
市原市	I1		5,377	
	I2	4,020	1,387	1,770
	I3	3,144	1,030	1,648
	I4	1,716	306	3,860
	I5	4,916	5,686	6,074
	I6		102	2,959
	I7		515	
大多喜町	O10	8,560	6,240	6,240
中部全域		22,356	20,643	22,551

表1-4 令和4-6年度の成獣メス割合

		R4	R5	R6
市原市	I1		7.02	
	I2	25.00	4.76	21.05
	I3	20.00	14.29	28.57
	I4	21.43		12.90
	I5	21.43	3.13	25.93
	I6			29.63
	I7			
大多喜町	O10	64.29	52.63	35.29
中部全域		40.00	17.42	25.52

表1-5 令和4-6年度の幼獣割合

		R4	R5	R6
市原市	I1		73.68	
	I2	40.00	71.43	31.58
	I3	20.00	57.14	0.00
	I4	35.71		45.16
	I5	35.71	75.00	25.93
	I6			29.63
	I7			
大多喜町	O10	0.00	2.63	14.71
中部全域		20.00	55.48	27.59

表 1－6 令和 4－6 年度のオス割合

		R4	R5	R6
市原市	I1		31.58	
	I2	40.00	57.14	47.37
	I3	60.00	57.14	71.43
	I4	50.00		48.39
	I5	57.58	34.38	59.26
	I6			44.44
	I7			
大多喜町	O10	35.71	44.74	50.00
中部全域		44.06	40.00	51.03

表 1－7 令和 4－6 年度の CPUE
(1000 基日)

		R4	R5	R6
市原市	I1		10.60	
	I2	4.98	15.14	10.73
	I3	3.18	6.80	4.25
	I4	8.16	0.00	8.03
	I5	2.85	5.66	4.45
	I6		0.00	9.12
	I7		0.00	
大多喜町	O10	4.91	6.09	5.45
中部全域		4.47	7.51	6.43

2 生息状況調査の結果（県中部区域）

2-1 令和6年度調査結果

- すべてのユニットにおいてシカが撮影された。大多喜町のユニット 010 の撮影頻度が最も高かった。
- すべてのユニットにおいてシカ成獣メスが撮影された。大多喜町のユニット 010 の撮影頻度が最も高かった。

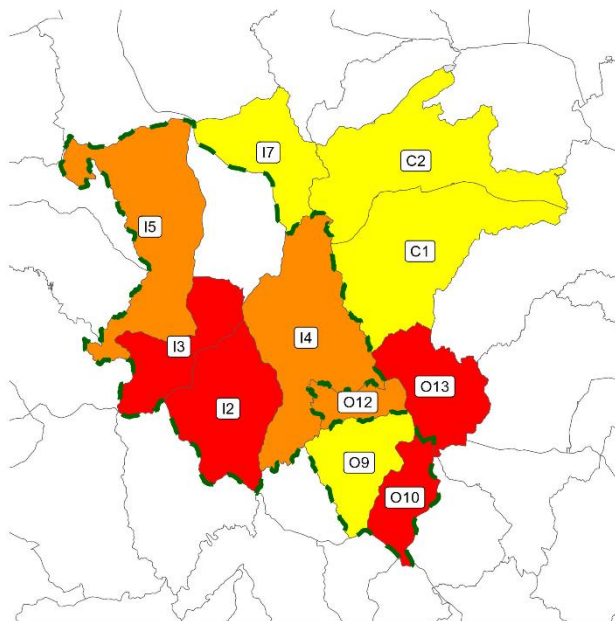


図2-1
ユニット別のシカの撮影頻度
(令和6年1月～12月)
※緑の破線（-----）は
令和6年度実施区域

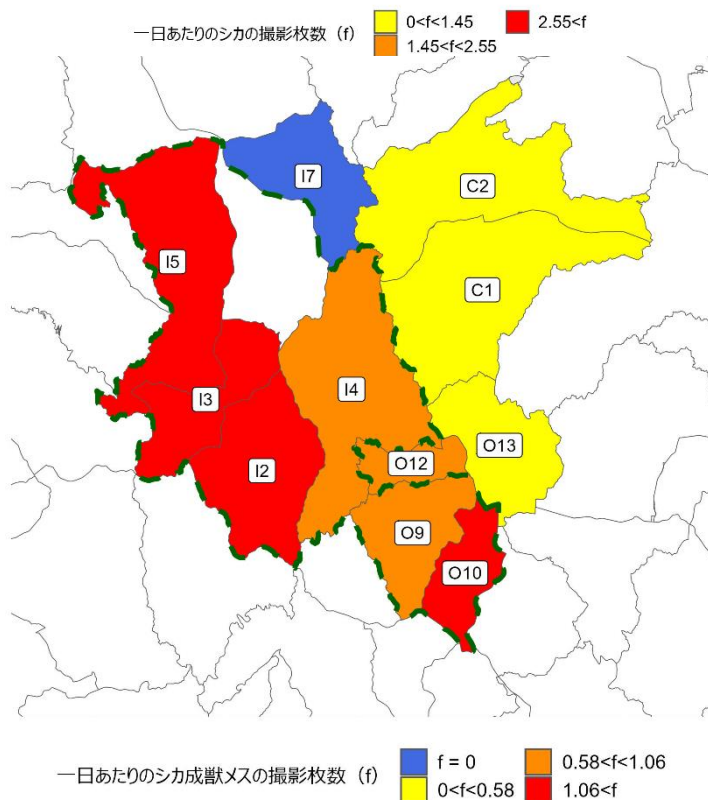


図2-2
ユニット別のシカ成獣
メスの撮影頻度
(令和6年1月～12月)。
※緑の破線（-----）は
令和6年度実施区域

2-2 経年変化

- 撮影頻度は市原市の I2、I5、大多喜町の全ユニットで増加が確認された。大多喜町の全ユニットで、撮影頻度が令和3年度以降の最も高い水準にあることが確認された。
- 成獣メスの撮影頻度について、市原市は I2、I5 で、大多喜町では O9、O13 のユニットで、その増加が確認された。市原市の I5 は令和3年度から令和6年度にかけて継続して増加傾向だった。

表2-1 令和3年度～令和6年度のユニットごとの撮影頻度の比較（枚/日）

市町村名	ユニット	R3	R4	R5	R6
		撮影頻度 (枚/日)	撮影頻度 (枚/日)	撮影頻度 (枚/日)	撮影頻度 (枚/日)
市原市	I2	-	2.96	2.19	2.58
	I3	0.65	2.91	4.93	3.41
	I4	0.49	2.35	2.37	1.80
	I5	0.55	2.52	2.42	2.51
	I7	0.02	0.09	0.23	0.09
大多喜町	O9	0.24	0.97	0.74	1.30
	O10	-	4.07	4.31	5.31
	O12	1.01	2.28	1.83	2.43
	O13	0.28	0.83	1.01	2.81

表2-2 令和3年度～令和6年度のユニットごとの成獣メスの撮影頻度の比較（枚/日）

市町村名	ユニット	R3	R4	R5	R6
		撮影頻度 (枚/日)	撮影頻度 (枚/日)	撮影頻度 (枚/日)	撮影頻度 (枚/日)
市原市	I2	-	0.82	1.12	1.17
	I3	0.37	1.09	2.71	1.55
	I4	0.18	0.76	0.86	0.59
	I5	0.28	0.72	0.87	1.07
	I7	0.01	0.00	0.02	0.00
大多喜町	O9	0.06	0.56	0.38	0.66
	O10	-	2.21	2.60	2.20
	O12	0.43	1.08	0.92	0.83
	O13	0.12	0.04	0.20	0.23

頻度低  頻度高

「-」：調査されていない、もしくはカメラ設置期間が6か月以下のものは比較対象外とし、データ無し。
※1～11月の期間で得られたデータを集計した。